

# 歌人が問う福島原発事故と「復興」 講演会

## 声を束ねて

沈黙は日ごとに解けていくように  
一人ひとりと声を束ねて

## 講師 三原由起子さん



2025

12/12（金）15：05～16：50（開場14：30）

茨城大学人文社会科学部講義棟 13番教室

（水戸キャンパス 水戸市文京2-1-1）

東日本大震災・福島原発事故で被災した浪江町。

三原さんは、当事者として、ふるさとや社会への想い・共感・疑問を言葉にのせて表現してこられました。歌人として『ふるさとは赤』（本阿弥書店）他、生活者としての被災の経験を短歌として表現されています。今回は、三原さんの言葉から東日本大震災・福島原発事故をみつめたいと思います。

### 三原由起子さんの経歴

1979年 福島県双葉郡浪江町生まれ。

1995年より作歌を始める。第48回福島県文学賞短歌部門青少年奨励賞受賞。

1997年 第1回全国高校詩歌コンクール短歌部門優秀賞受賞。

1999年 早稲田短歌会入会。

2001年 第44回短歌研究新人賞候補作。

2002年 共立女子大学国際文化学部国際文化学科日本文化コース卒業。

2011年 詩歌文芸出版社いりの舎を夫と設立。

2013年 第24回歌壇賞候補作。

2013年 第一歌集『ふるさとは赤』（本阿弥書店）を出版。

2017年度～2019年度 日本歌人クラブ中央幹事を務める。

2021年 新装版歌集『ふるさとは赤』（本阿弥書店）を出版。

2022年 第二歌集『土地に呼ばれる』（本阿弥書店）を出版。

現在、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与、調布市西部公民館「短歌スケッチ」講師など。



どなたでも  
参加できます（無料）

主催 茨城大学人文社会科学部市民共創教育研究センター  
企画 環境社会学研究室、国際政治学研究室、地域社会論研究室  
協力 一般社団法人ふうあいねっと